



変革の今こそ、校長の力を発揮するとき

福井県小学校長会

会長 小島 敏 弘



「グラウンドでは体育の授業。強い日差しの中、3名の先生がストップウォッチを両手に80m走のタイムを計っている。それぞれの次の授業は、算数と理科、国語である。週あたりの授業は25・26時間で、ほとんどない空き時間、休み時間は教室で宿題のチェックとおたより帳への返事書き。給食指導をしながらどうにか昼食を終える。下校を見送ってから、やっと学年の教員がそろっての職員室ではじめての休憩。そしてすぐに明日に向けての学年での打合せ。月に何日かはケース会議や保護者との面談、職員間の会議が行われ、あっという間に勤務時間が過ぎてしまう。」…。これは、小学校の先生の日です。私は小学校の先生の働く姿を見て、子どもとともに動き回ることのできるタフさとフットワークのすばらしさにいつも感心しています。

さて、新学習指導要領の告示を受けて、移行措置の実施、道徳と英語の教科化、対話的で社会に開かれた教育課程等。小学校にとっては、新たな教科が導入され授業時数が増えるなどの大きな変革の時期を迎えています。とりわけ英語の1時間をどう生み出すのかは、各学校での大きな課題の一つとなっています。一方、教員の長時間労働解消に向けた負担軽減策について中教審でも審議が始まり、文科省ではその答申を受けて年内にも教員の働き方改革の緊急対策をまとめる予定です。学校現場で

は、これまでの業務に加え、新学習指導要領への対応のための時間が必要な時期に、長時間労働解消というややもすると相反する対応が求められています。勤務時間を超えても児童一人一人にしっかりと向き合い、よさを伸ばそうとする熱意と使命感に燃えた福井県の教職員のすばらしさを失うことなく、どう時間外勤務を削減していくか。このような変革の今こそ、校長の力が求められています。

昨年度の県小学校長会調査研究報告書によりますと、校長が今後重視していかねばならないこととして「教員の授業力向上」「学校の組織的運営」「教員の多忙化解消への校務改善」が課題の上位に挙げられています。私は、それらの課題解決の根底には「よい職場づくり」があると思っています。なぜなら、教職員にとって働きがいのある学校が、気持ちのよい充実した職場環境となって優れた教師を生み、児童と教師のよい関係の中でのすばらしい教育とつながっていくからです。

結びになりますが、福井県小学校長会191名が校長としての力を十分に発揮し、すばらしい学校づくりに寄与されることを期待しますとともに、本會報105号の発行に対しまして、ご指導とご協力いただきました関係各位並びにご尽力いただきました編集広報委員会の皆様から感謝申し上げます、挨拶といたします。

平成29年度

福井県小学校長会活動方針

福井県小学校長会は、結成以来、本県の小学校教育の充実・発展のため、真摯に研究と実践を積み重ねるとともに教育諸条件の整備・充実に努め、多大な成果をあげてきている。

今日、知識基盤社会への新たな進展やグローバル化の進行、技術革新や急激に進む少子高齢化等により社会が加速度的に変化し、子どもたちの成長を支える教育の在り方も新たな事態に直面している。このような中、小学校教育においても、一人一人の子どもたちに、自立した人間として他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力の育成が求められている。

本県では、「ふるさと福井への誇りと愛着を持ち、自ら学び考え行動する力を育む」ことを基本理念とする「福井県教育振興基本計画」をもとに、「福井型18年教育」「ていねいな教育」「きたえる教育」により、子どもたちに夢や希望を実現する「突破力」を身につけさせることも求められている。また、3月に告示された新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」を目指すべき理念として位置づけ、「主体的・対話的で深い学び」やカリキュラム・マネジメントをキーワードに、「何ができるようになるか」という新しい時代に必要となる「育成すべき資質・能力」を明確にし、その資質・能力を育成するために「何を学ぶか、どのように学ぶか」について示されている。

こうした中であって、学校は、新たな価値を創造し、社会を生き抜く力を身につけた日本人の育成を目指すために、確かな学力や豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育む教育を実現するため、学校組織の活性化を図り、創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善に努めなければならない。さらに、グローバル化に対応できる人材の育成を目指す英語教育の拡充・強化、いじめ等問題行動の防止に向けた人権教育と道徳の教科化、質の高い教育活動を実現するための教職員の資質能力の向上、特別支援教育の充実、教師が子どもたちと向き合う時間の確保など、対応すべき重要課題が山積している。また、危機管理体制の見直し、安全指導の充実、関係機関との連携を強化した防災教育の推進も喫緊の課題となっている。

このような状況の中で、校長は、現状を深く認識し、教育改革の動向を的確に把握しながら、リーダーシップを発揮し、学校組織の活性化を図り、教育成果をあげていかなければならない。私たちは、組織の総力をあげて



課題解決に努めるとともに、積極的に政策提言を進め、もって県民・国民の信頼に応える必要がある。そのために、校長は自らの使命を自覚し、権限と責任のもとに、未来社会に夢と希望をもち、たくましく生きる児童の育成を志向して、活力ある学校づくりに努めなければならない。

以上の方針をふまえ、本年度は次の活動を重点として推進する。

本年度の活動の重点

1 学校経営の充実

校長自ら研鑽に励み、学校経営上の課題を明確にし、経営方針を確立する。さらに、家庭・地域社会や異校種間との連携を密にして、危機管理体制の一層の充実により児童の安全確保を最優先に、創意ある教育活動を展開し、生きる力の育成をめざす開かれた学校経営の充実に努める。

2 研究活動の充実

新学習指導要領の内容を視野に入れ、研究主題「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」に基づき「豊かな心と確かな学力を身につけ夢と希望に向けて共に生きる子どもの育成」を副主題に研究に努め、その成果を学校経営で具現化する。また、福井県小学校長教育研究二州大会や東海・北陸地区連合小学校長会教育研究愛知大会においてその成果を発表するとともに、全国連合小学校長会教育研究佐賀大会に参加する。

3 「生きる力」を育む創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善

学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能の習得とその活用を通じて思考力・判断力・表現力等を育成する。また、言語活動や体験活動の充実により、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え行動する力を身につける教育を推進し、協働して課題解決する力と確かな学力を育む授業改善に努めるとともに、心の教育を一層推進して豊かな心を育

む道徳教育の充実・改善を図る。さらに、児童理解を深め、いじめ・不登校などに関わる課題の解決のために、いじめ防止基本方針や校内組織の整備、教育相談体制の充実を図ることや体力の向上など、健やかな心身の育成を図り、一人一人の自己実現を目指す教育を推進する。これらのことを重点に、心豊かにたくましく生きる力の育成を目指す教育課程の編成・実施・評価・改善に努める。

4 教職員の資質・能力の向上

教職員に適切な指導助言を行い、学校内外の研修体制の充実を図りながら、学級経営、教科指導、生徒指導などの実践的指導力を高めるとともに、教職員人事評価システムを活用して、教職員一人一人に専門職としての自信と誇りを育む。また、新採用教員が増加する時期をむかえ、より一層、若手教員の資質・能力の向上を図ることに努める。

5 教職員の定数や処遇の改善

子どもたちと向き合う時間の確保、質の高い教育活動の実現に向けて、教育諸条件の整備や義務教育費国庫負担制度の堅持および義務教育諸学校の教育職員の人材確保に関する特別措置法の堅持を強く求めるとともに、これらの精神を十分尊重し、管理職を含む全ての教職員の職責に相応する適正な処遇が得られるよう、要望活動の強化に努める。

これらの活動を推進するために、東海・北陸地区および全国連合小学校長会との連携を一層密にして組織活動の充実を図るとともに、関係諸機関・団体とも連携し、小学校教育に対する正しい世論の形成に寄与する。

【主な委員会と活動事項】

本年度の活動方針に基づき、本会の事業遂行のために次の専門委員会および特別委員会を設置し、事業を推進する。

(1) 専門委員会

◇人事行財政対策委員会

義務教育費国庫負担制度の堅持、教職員の定数改善、少人数学級の拡大を目指す学級編制基準見直しの促進、退職時の処遇の充実等のため対策・要請活動を行う。

◇調査研究委員会

今日の学校教育の課題や学校経営上の諸問題について調査研究し、対策に資する。

◇教育研究委員会

研究主題を設定し、研究活動の推進および教育研究大会の企画推進を行う。

◇編集広報委員会

「会報」を発行し、情報の提供、成果の報告等を行う。

(2) 特別委員会

必要に応じて設置する。



平成29年度

専門委員会活動計画

人事行財政対策委員会

(要請活動・人対資料)

- 4月18日 ○第1回専門委員会
(第1回小学校人対委員会)
正・副委員長選出、活動方針・内容について協議、情報交換
- 5月 ○第1回小中合同人対役員会
正・副部会長の選出、役員選出
活動方針・活動計画の協議
県教委への「教育長と語る会」
実施日程の依頼
各郡市でアンケート等で課題、提言について集約・分析
- 6月29日 ○第1回小中合同人対委員会
- 7月 ○第2回小学校人対委員会
アンケート等で課題、提言の集約・分析、提言等の協議
- 8月 ○「県教育長と語る会」の事前打合せ
(話題、提言等について)
- 8月16日 県教育長と語る会
- 9月 ○「語る会」についての報告
- 10月 ◎全連小人事対策研究協議会参加(委員長)
- 1月 ○第3回小中合同人対役員会
全連小報告
次年度に向けての課題の協議

調査研究委員会

(実態調査・調査報告)(全連小調査)

- 4月18日 ○第1回専門委員会
正・副委員長選出
年間事業計画の作成
調査内容(項目)に関する希望調査方法の検討
- 5月 ○調査内容についての会員の希望調査
各郡市ごとに希望調査の集計
全体の集計
- 5月23日 ○第2回専門委員会
調査研究項目・内容の決定
- 6月 調査用紙の配布と集計
- 8月23日 ○第3回専門委員会
調査結果の分析と考察1

- 10月 ◎全連小調査研究協議会参加(委員長)
- 10月 ○第4回推進委員会
原稿検討
調査結果の分析と考察2
- 11月 ○報告書の配布

教育研究委員会

(研究推進)

- 4月18日 ○第1回専門委員会
正・副委員長選出
年間事業計画案作成
委員会の業務の確認
連絡方法の確認
- 5月 ○東海北陸、全連小大会の参加者報告
- 6月8日 ○第2回専門委員会
県小学校長教育研究二州大会について
東陸連小愛知大会について
全連小佐賀大会について
- 8月22日 第69回県小学校長教育研究二州大会
敦賀市 プラザ万象・敦賀図書館
- 2月 ○第3回専門委員会
平成30年度南越大会について
平成30年度東陸、全国大会について
年度末反省

編集広報委員会

(会報発行)

- 4月18日 ○第1回専門委員会
(第1回編集広報委員会)
正・副委員長選出、活動方針
各郡市原稿割当の確認・決定等
会報編集計画
- 5月 ○「会報」105号原稿依頼
- 6月30日 ◎全連小広報担当者連絡会参加(委員長)
- 7月10日 ○(一次校正)各郡市で実施
- 7月21日 ○一次校正締切
- 8月 ○第1回編集企画会議
二次校正、編集作業
- 8月 ○第2回編集広報委員会
- 9月1日 ○「会報」105号発行
○「会報」106号原稿依頼
- 12月8日 ○二次校正締切
- 1月 ○第2回編集企画会議
二次校正、編集作業
- 2月 ○第3回編集広報委員会
「会報」106号発行

校長講話

挽回する

福井市東藤島小学校長
山口 昌一

今日は、みなさんがよく知っている「ドラえもん」を使ってお話しします。「ドラえもん」は大変長く続いた漫画で、テレビアニメにもなりました。漫画は、始まってから45年経ちますし、テレビアニメになってからも40年です。その間ずっと人気が続いています。さて、人気のある理由のひとつに、ドラえもんが次々と出してくる不思議な力を持った「秘密の道具」があります。いくつぐらいあるか知っていますか？実は約2000種類あります。何度も登場してみんながよく知っている物もありますが、1回しか登場してなくてほとんど知られていない物もあります。



みなさんは「秘密の道具」の中で何が欲しいですか。人気ランキングを調べてきました。1位の「どこでもドア」は予想通りだと思います。

ひみつのどうぐランキング	
1. どこでもドア このドアを開けばどこへでも行ける。どこへでも行くことができる。	43.81%
2. タイムマシン 過去の出来事や未来の出来事を見たり、自由に空間を移動したりすることができる。	38.91%
3. もしもボックス もしも人間に動物の力や植物の力など、さまざまな能力を付与する。そのほかの動物や植物にも。	38.81%
4. タイムスリップ 過去の出来事や未来の出来事を見たり、自由に空間を移動したりすることができる。	38.81%
5. スモールライト このライトの光を照らすと、どんなものでも小さくする。	38.81%
6. タイムふりしぼり 過去の出来事や未来の出来事を見たり、自由に空間を移動したりすることができる。	38.81%

実は、先生が欲しい「秘密の道具」は10位の「人生やりなおし機」なんです。これは、どんな道具かというと、何か失敗したりできなかつたりした時や、あの時こうすれば良かったと思う時へ、記憶はそのままで戻れる道具です。その時のことを覚えているのでもう失敗しませんね。先生も、この道具があったらやり直したいと思うことがたくさんあります。でも、「人生やりなおし機」は持っていません。

みなさんも今までに失敗したり、思い通りにいかなかったりして残念に思ったことは沢山ありますね。授業中分からなかったり、テストで失敗したり、先生やお家の人に叱られたり、友達とけんかしたり、スポ少の大会で負けたり、いろいろあったでしょう。

これからもそんなことは必ずあります。みなさんはそんなときどうしますか。「人生やりなおし機」があれば戻ってやり直せますが、まだ発明されていません。

そんなときは、大人も子どもも一緒です。大切なことは、失敗したりできなかつたりしても諦めないということです。次は成功するように、できるようになるように、上手くいくように、勝てるように、がんばることが大切だと言うことです。それを「挽回(ばんかい)する」といいます。「人生やりなおし機」が発明されるまでは、何度失敗しても、できなくても、負けても、諦めずに「挽回」する気持ちを持ち続けましょう。たとえ最後まで自分の思うようにいかななくても、「挽回」の気持ちとその努力がみなさんを成長させるのです。

当たり前

あわら市細呂木小学校長
川端 新治

今日は「当たり前」のお話です。

この学校でみんなが「当たり前」にやれていること、一つあげなさいと言われたら何をとりあげますか。(児童の挙手、指名、発言)

校長先生が自信をもって言えるのは、「挨拶」です。君たちは挨拶への意識が高く、地域の人からもよく褒めの言葉をいただきます。学校でもしっかり取り組んでいると思います。例えば、朝、下の駐車場の階段登り口で校長先生と交わす「おはようございます」はもちろんですが、登校してきたおよそ百人の全校児童全員が、校舎に入って一旦職員室入口のところまで行き、職員室の先生方に向けて、一人一人順番に「おはようございます」と挨拶していますね。帰りも同様に一人一人が職員室まで顔を出し「さようなら」と連呼する光景があります。校長先生として、一日の始まりと終わりがこんなに気持ち良い学校はありません。良き伝統が受け継がれていると思います。「当たり前」にやれていることが素晴らしいです。この職員室への全員挨拶は、みんなは何とも思っていないだろうけど、校長先生にとっては学校外の人に語れる一番の自慢です。

ところで、ここで校長先生の好きな言葉を皆さんに教えましょう。『凡事徹底』(文字でスクリーンに映す)『ぼんじてってい』と読みます。「当たり前のことを当たり前前にやってのける」「なんでもない当たり前のことを徹底して行く」ことです。「何か特別なことをやるのではなく、当たり前のことを徹底的にやり続けることで他との差ができ、大きな成果につながる」という意味が込められています。学校のいろいろな所で校長先生が目標としている言葉です。君たちにも、この言葉を踏まえた取組を期待しています。挨拶に関しては「当たり前」に行ってきた運動が認められ、先日学校表彰を受けましたね。校長先生も嬉しかったです。

当たり前のことをするのに特別な才能はいりません。なぜなら、誰でもできることだからです。でも成果がでるかでないかは、その当たり前を徹底してできるかできないかの差なのです。

「なんでもない当たり前のこと」こそ実は重要なんです。「なんでもない当たり前」と思えることを徹底的にやるのが、結果として大きな成果をもたらします。

本気になってやりたい(実現したい)と思うことを何か一つ探しましょう。見つけたら、その実現に必要な基本を押さえることです。あとはそれを凡事徹底していく覚悟を決めて取り組めばいいのです。そうすることが、「夢が叶う」ことにつながる一番の道になります。皆さん一人一人の頑張りを期待します。

いろいろな見方・考え方の できる子に

南越前町立湯尾小学校校長
野村 哲夫

れ

まずは、このひらがなをよく見ておいてください。みなさんには、どのように見えますか？

わたしはふしぎでたまらない、 だれもいじらぬ夕顔が、 ひとりではらりと開くのが。	わたくしはふしぎでたまらない、 青いくわの葉たべている、 かいこが白くなることか。	わたしはふしぎでたまらない、 黒い雲からふる雨が、 銀にひかっていることが。	ふしぎ 金子みすず
------------------------------------------------	-------------------------------------------------	----------------------------------------------	------------------

さて、これは金子みすずさんの「ふしぎ」という詩です。みんなが、そんなの当たり前のことだと見すごしていることでも、よく考えてみると不思議でたまらなという気持ちを詩にしています。とてもいい詩で、前ら大好きな詩の一つです。

なんでも当たり前のことと済ませていては、新しいものは何も生まれてきません。ほんの少し見方や考えを変えることで「ふしぎ」が見つかることがあります。そして、その「ふしぎ」を解決していく道筋で新しいものが生まれてきます。発見とか発明とかいったものはおおよそこの「ものの見方や考え方を考える」ことから始まっているようです。

これからの進歩や変化の激しい社会では、いろんな見方や考え方のできる人が求められるようになります。

さて、「れ」の話ですが、ひらがなの「れ」に決まっていますよね。でも、ちょっと見方を変えると、違うものに見えてきます。

この詩は、なんと3歳の男の子の詩です。○○○○には、どんな言葉が入っていると思いますか？気づいた子もあるかも知れませんが、実は「カンガルー」です。この詩

れ

ママ

ここに

○○○○○が

いるよ

を初めて読んだとき「あー、なるほど！」と、とても感動しました。

友だちにしてもそうですよ。あの子はこういう子だと決めつけてしまわず、いろんな角度から見つめてみると、また一つ新しい良さが見えてくるにちがひありません。

みんなで広げよう 「ハイタッチ挨拶」

高浜町立青郷小学校校長
山本 眞

玄関の桜が、満開に咲き誇る4月になりました。新入生23名の皆さんを迎え、153名の児童数になりました。いよいよ、新しい一年が始まります。

今日、午前7時40分に児童玄関前に立ちました。皆さんとハイタッチ挨拶をするためです。

「おはよう。」と声をかけたら、元気いっぱいのおはようございます。」とと同時に「パン！」というとてもいい音のハイタッチが返ってきました。

今日のハイタッチの力強さに、皆さんのこの一年「がんばろう」と思う気合いを感じました。

登校してくる皆さんの顔は、いつも以上に晴れ晴れと意気揚々としています。どの子も、これから始まる新しい学年への意欲が漲っています。

このハイタッチ挨拶は、大阪の金先生から学んだものです。日本一ハッピーな学校づくりをしたいと始められた取組です。

私も、青郷小学校を金先生の学校に負けず日本一ハッピーな学校にしたいと願いまねさせてもらっています。昨年、一年間続けて感じたことは、言葉の挨拶だけよりも皆さんとの心の距離が近づけたということです。

皆さんと授業などで触れ合う機会がない校長先生にとっては、とても大切な行事です。ハイタッチの仕方でも皆さんの元気度、延いては学校の元気度が分かります。

「パン！」といういい音を交わすことができれば最高！！何か大きな元気をもらった気がして、一日を気持ちよく頑張れます。言葉だけでなく、体が触れ合うということは、お互いの大きな力になるのだと思います。

しかし、中には目も合わせず、挨拶を交わすことなく、ハイタッチをしない子もいました。「どうしたのかな？」と言葉をかけたくなります。

このハイタッチ挨拶がみんなに広がれば、友達の心の状態に気づくことができるようになるのではないかと思います。「何かあったのかな？」と声をかけたり、励ましたりできると思います。こういう優しい気遣いが居心地のいい学校をつくり、ハッピーな青郷小学校をつくるのです。ハッピーな学校をつかっていくのは、みんな一人一人です。ハイタッチ挨拶をみんなで行いましょう。元気のないときは、校長先生のハイタッチで元気を受け止め、自分の元気にかえてください。



新任校長の言葉

つづける努力 かがやく未来

福井市越廼小学校長 菅野 博

表題は、福井市越廼小学校で非認知能力を育むための本年度のスローガンです。着任早々、全校児童35名と教職員10名の各々に、1年間毎日継続して実行していく「目標」を決めてもらい、心を合わせて取り組んでいくをお願いしました。目標を達成していくための「忍耐力」「自己抑制」「目標への情熱」、他者と協力するための「社会性」「敬意」「思いやり」、情動を抑制するための「自尊心」「楽観性」「自信」などは、いずれも人として大切な姿勢や力です。これらの非認知能力は点数で計ることはできませんが、学歴や仕事など将来の成功の支えとなるもので、人生の土台となるものです。自分の得意なことで更に高い目標を定めて達成したり、逆に苦手なことに積極的に取り組み、少しずつでもできるようになったりする体験を積み重ねていくことが大事です。

将来が見通しづらい時代。私たち教師は、子どもたちが自分の人生や生き方について主体的に考えていける「学びのパートナー」となることです。教えることには限界がありますが、学ぶことには限界がないからです。子どもたちを取り巻く現在の状況と、将来の変化を見通しながら、自分自身の持つ様々な可能性に気付かせ、「自分のできること」を引き出し、さらなる成長を促す場と機会を提供できる学校でありたいと思っています。

真摯な態度

福井市下宇坂小学校長 五十嵐 隆美

園児を含め71名の小規模校ですが、自然に恵まれた環境と北欧風の校舎で学ぶ子どもたちは、素直で明るく素敵な挨拶をしてくれます。毎朝、校門で一礼、「校長先生おはようございます。」この二言挨拶が下宇坂小学校の学校文化です。

さて、校長となり4月は校長会の仕事に追われる毎日でした。5月に入ってようやく仕事も一段落し、再度「校長の仕事・リーダーシップ」とは何かといったことを考えました。

校長の一番の仕事は、月並みですが「子どもが安心して笑顔で楽しく通える学校」を創りあげること、何度考えてもここに落ち着きます。そのためには、授業で勝負し常に学び続ける教師を育成し、協働体制を構築していくことが必要不可欠です。教師集団も学級集団と同じで、いろいろな強みや弱みを持った者の集まりです。そこで、校長には、一人一人を認め組織の中で生かしマネジメントしていくことが求められると思います。

校長の真摯な態度が教職員を動かし、学校に関わるすべての保護者や地域の方を刺激し、子どもがたくましく成長していくと信じています。今後も初心を忘れずに学校運営に邁進していきます。

新米校長にできることは

勝山市立平泉寺小学校長 山口 きみ子

新採用から4年目で勝山市へ嫁ぎ、最初に赴任した学校が平泉寺小学校でした。平泉寺小での7年間の勤務の中で、実家の両親を相次いで亡くし、2人の子どもを授かり育児休業をいただくと、実質は5年弱の勤務でしかなく、たくさんご迷惑をおかけしました。ですから今年度、平泉寺小学校長を拝命し、少しでもご恩返しができればと願っています。ところが実際は、当時の子どもたちが保護者になっていたり、当時の保護者が地域の応援団として学校を色々助けてくださったりして、お世話になってばかりです。学校の草取りや伝統行事の「フキ採り」、マラソン大会のボランティアなどには、家庭実数が28であるにも関わらず、たくさんの方がご協力くださいました。

このすばらしい地域環境の中で、子どもたちの学校生活をより豊かな実りあるものにするために校長がすべきことは何なのか、校長のリーダーシップとは何なのか、わからないまま毎日が過ぎていっています。職員室にずっと居て、教職員のみなさんと距離が近かった教頭時代とは、明らかに違う立場であることをひしひしと感じる今日この頃。新米校長にできることは、笑顔で子どもたちや教職員、地域の皆さんと接し、よいところを見つけ伝え感謝することであると、毎日をすごしています。

元気のある学校づくり

坂井市立鳴鹿小学校長 経石 了賢

私の場合は、本校で3年間を教頭としての仕事を経験してきているので、子どもたちや地域のことは分かっていたために、大変にありがたかった。

子どもたちと先生方が、毎日学校へ来るのが楽しみであると思える魅力ある学校づくりを目指していきたい。学校へ来てくれるのが当たり前ではない。学校へ行きたいと思うような笑顔あふれる学校である。

例えば子どもにとって勉強が分かり、できるようになったということは、何よりの楽しみである。それが究極的に、学校が果たす役割であると考えている。

そのためには、先生が子どもの頑張っていることを探し、認め、褒め、励ますことが大きな意欲づけと教育的効果をもたらす。同じようなことが、先生方に対しても言える。それがまた、先生方の資質向上や学校経営参画意識の高揚の近道であると確信している。

特に校長の役割として、いかに学校を生き生きと活力があり、魅力ある学校づくりを進めるかである。そのためには、校長の経営方針を明確に示し、家庭・地域など外部の協力も得ながら、掲げた目標を教職員全員が共有し、一体となって協働的に実現していくことである。そして、明るく・楽しく・動きのある学校を目指して、子どもと教員が共に、元気のある学校を実現していきたい。

地域と協力して育む

越前町立萩野小学校長 水嶋 孝子

「ドンドンドンドン。」今も体育館から和太鼓の音が聞こえてくる。丹生郡の音楽会に出るために、4～6年生が地域の方の指導の下、太鼓の練習をしているのだ。

萩野小学校は「忌部岩倉神の名古し」と校歌に歌われるように、織田の劔神社のもととなる座が岳(神社)の麓にあり、越知山を望んでいる。またこの地は昔から太鼓が盛んで、子どもたちも幼いときからその響きを耳にしてきた。

歴史と伝統があり、地域の方から「はぎののがっこ」と大切に思われ、様々な面でサポートしてくださる学校に赴任し、改めて責任の重さを感じる。

子どもたち67人は、朝玄関で目を見て元気よく挨拶をする。登校後すぐに花壇の水やりや玄関掃除。集会や業間では高学年が低学年の面倒を見る。裏の畑ではボランティア先生に野菜の植え方を熱心に教わっている。

こんなひたむきな子どもたちと保護者や地域の方の思いを受け止め、一人一人のよさを認め、生き生きと過ごせる学校を受け継がねばならない。そして目標に向かって一生懸命取り組んだり、最後までやり抜けるたくましさや身を付けた歴史と文化の担い手を育てていく。地域の一員として成長していくために、微力ではあるが、太鼓のように心に響く教育を進めていきたい。

地域の発案を生かし協力を得る

越前市岡本小学校長 真柄 二郎

「地域と進める体験推進事業」をアグレッシブに実行するには最高の学校に赴任しました。それは思いもかけず私の母校でした。本校は、越前和紙の里として自他共に認める日本一の産地、越前市今立地区にあります。

新任の挨拶先での話。「毎年、和紙の神様の祭礼には、たくさんの外国人が来ます。子どもたちに、和紙を、英語で紹介する活動はできませんか。」口をついて出たのは「面白いですね。できない理由はたくさんありますが、考えてみましょう。」

さっそく学校で企画案を練り、教頭と教務に意見を聞いたところ、返ってきた返事は合わせたように一緒でした。「これは面白いですね。わくわくします。」

企画案の柱は2つ。1つは、和紙の里を訪れる観光客(含:外国人)に、子どもたちが和紙を紹介すること。もう1つは、この活動を「子ども観光大使」に認定すること。次年度から先取りで始まる英語活動を生かし、自主性・積極性の高まりも期待できます。

それからは職員会議で企画案を協議し、同時に市の教育委員会へも協力を求めました。話とはとん拍子に進み、次年度から本格実施になりました。最初はこんなことができますか?から始まった話ですが、地域の発案を生かし、協力を得れば意外と進められるものです。

編集後記

この度、多くの皆様のご協力のお陰をもちまして、「会報」第105号を発行する運びとなりましたこと、心より感謝申し上げます。昨年度より「会報」を新しいスタイルに切り替え、年2回の発行といたしました。今年度も、昨年度からの流れを引き継ぎ、創意ある小学校教育を実践する校長の学校経営の推進に資するとともに、会員相互の意見交換等がますます盛んになっていくことを願い、さらなる紙面の充実を図ってまいりたいと思っております。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

懐かしさの中で

敦賀市立中郷小学校長 林 克伸

懐かしい学校に24年ぶりに戻ってきた。新採用から2校目、教員人生の中で一番大きな学びを経験した学校である。初めて研究主任という大役を得、導入が始まったばかりのコンピュータを使った教育(当時はCAIと呼ばれていた)に四苦八苦しながら、視聴覚の研究大会を開催した。校長室には、研究大会の準備で夜を明かした時に仮眠した、寝心地の良いソファが今も残っている。パソコン室には、その時作った教材も残っていた。

当時担任した児童の保護者が今は地域の区長さんなどになっていたり、教え子本人が何人も在学児童の保護者でいたりして、4月から5月にかけては「おかえり」「覚えてますか」の声をたくさんかけていただいた。その時も、研究大会のことが話題になった。あの時に私たちががんばったことは、その後子どもたちの人生にも大きく影響していることを知った。研究大会の手伝いをしてくださったPTAの方々の中にも良い思い出として残っていることも分かった。子どもたちのためにと費やした時間は、決して無駄にはならない。

今も昔も、学校は保護者や地域の方々に支えられていることを改めて感じるとともに、この方々の願いに応え、地域の未来を担う子どもたちを育てる学校でなければならないということを強く思った。

「チーム遠敷」で育てる 確かな力と豊かな心

小浜市立遠敷小学校長 山根 亮子

本校は、創立百十余年の歴史を誇る学校であるが、あと2年で閉校となり、4校を統合した「小浜美郷小学校」へと生まれ変わる。2年後を見据え、「未来への扉をひらく心豊かな遠敷の子」を教育目標に、人権教育を中核に頭と心と体をバランスよく鍛え、生涯にわたって学ぶ基盤となる力を育む教育活動に取り組んでいる。

保護者・地域の応援も熱く、「チーム遠敷」として力強く学校を支えてくださっている。学校近くの小山「はたけじ」をはじめ地域全体を教室にした学習や鯖街道を京都まで踏破する困難克服体験など、遠敷の子どもたちの元気とパワーを生かすダイナミックな教育活動は、保護者・地域との協働があってこそ実現できるものである。また、昨年度から毎月交互に人権講演会、キャリア講演会を開催してきた。身近な人々の地域に貢献しようとする姿、夢や目標に向かって挑戦し努力する姿、精一杯自分の命を輝かせて生きる姿などにふれることで、子どもたちが自身の生き方を考え、学びへの意欲につながるようにしている。

遠敷の子どもたちが、夢と目標に向かって、人生をたくましく切り拓いていく確かな力と豊かな心を育ていけるよう、閉校までの2年間、学校・保護者・地域と協働する教育活動を一層前進させていきたい。